

【取組概要】

団体名	宗像市教育委員会（むなかた子ども大学）
活動の内容（概要）	学校教育におけるキャリアプランニング能力の向上に向けた取組を補完、強化するものとして「むなかた子ども大学」に取り組んでいる。その枠組みにおいて、教育委員会が主体となって、企業・団体・大学等の協力のもと展開する約 35 の講座の中から 1 つを児童生徒が選び、職業に対する想い・楽しさ・やりがいなどを学べる「メインキャンパス」、月に 1 回程度、この日にしかできない職業体験をとおして深く学ぶ「特設講座」、市内全小中学校が主体となって、企業・地域などと連携・協働し、子どもたちの興味・関心を深掘りする体験や学習を行う「むなかた子ども大学の日」を開催している。

受賞理由

- まだ、歴史は浅いが「メインキャンパス」「特設講座」など多様な体験の機会を頻繁に設定している。
- 市内全小中学校が参加するなど普及している。
- 主体的なキャリア形成支援のためには子供時代より多くの社会体験・職業体験の機会が必要であるが、そのために幅広い関係機関が積極的にかかわっており、協力性は十分である。とくに家に籠りがちの不登校児童生徒に対して、社会とつながるきっかけになるように働きかけるなどの誰一人取り残さない配慮が、定住都市宗像の実現に一役買うのではないかと感じた。継続性に於いてもアンケートを活用して、今年 4 年目で 14 講座増と創意工夫されていることが伝わってきた。さて今後「本物から学ぶ」「本物を体験する」子供たちの楽しい体験が、やりがいや勤労への意欲、志へと変容する結果が楽しみである。
- 多数の協力者をどのように集めたのか、どのように運営しているのか。たくさん知りたいことがあった。
- 参加生徒数が 1 万人を超え、国内での協力ある機関と多数連携し海外ともつながる、スケール感のある取り組み。それは「本物の体験」にこだわることの魅力が理解されているからだろう。小中一貫の縦と地域での横のつながりという考え方も、地域での存在感を増す要因となっている。不登校者など取り残さないという思想や、食育への貢献など価値の高い取り組みである。
- 単なる体験活動の提供ではなく、その仕事の社会的意義や役割、働く人の様々な思いや苦労、楽しさを伝えることで、子どもたちの勤労への意欲や理解度を高め、それぞれが将来の進路を個に応じて選択する能力が育まれるよう、各参画事業者と協議を重ね、講義内容を組み立てられている点。また、不登校児童生徒についても、年間を通じて社会的自立につながる様々な学びの場を企業やソーシャルワーカー・不登校児童生徒の保護者と協力のもと提供し、誰一人取り残されない学びの保障及び不登校児童生徒が社会とつながるきっかけづくりに向けて取り組んでいること。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等）】

宗像市教育委員会、宗像市立小・中学校、宗像市立義務教育学校、福岡県立宗像高等学校、国立大学法人 福岡教育大学、日本赤十字九州国際看護大学、学校法人 東海大学、福岡県立少年自然の家「玄海の家」、認定こども園 いちごいちえん、総合学園ヒューマンアカデミー 福岡校、公立大学法人 北九州市立大学、国立大学法人 九州工業大学、九州産業大学造形短期大学部、福岡デザイン＆テクノロジー専門学校、福岡スクールオブミュージック＆ダンス専門学校 高等課程、福岡 ECO 動物海洋専門学校、EXPG 高等学院 福岡校、マウントロスキル校（ニュージーランド）、アリゾナ大学（アメリカ合衆国）

【行政（首長部局等）や地域・社会（NPO法人やPTA団体等）、産業界（経済団体や企業等）】

【行政】宗像市、金海市（大韓民国）

【地域・社会】福岡県宗像警察署、宗像地区消防本部、社会医療法人水光会 宗像水光会総合病院、在福岡米国領事館、NPO 法人 アジア太平洋こども会議・イン福岡、NPO 法人 ホークスジュニアアカデミー、社会福祉法人 北筑前福祉会、一般社団法人 BC-ROBOP、一般社団法人 くらげれんごう

【産業界】アビスパ福岡株式会社、イケア・ジャパン株式会社、株式会社イワタダイナース、エフコープ生活協同組合、株式会社大濠企画、株式会社カプコン、九州朝日放送株式会社、九州電力株式会社 福岡支店、九州旅客鉄道株式会社 赤間駅、株式会社 QTnet、株式会社グラノ 24K、株式会社グルーヴノーツ、株式会社 Growbuddy、株式会社グローバルアリーナ、西部ガス株式会社、自衛隊福岡地方協力本部、資生堂ジャパン株式会社、シフトプラス株式会社、シャボン玉石けん株式会社、株式会社 JAL スカイ九州、株式会社スターダム、セイハネットワーク株式会社、総合警備保障株式会社 福岡支社、有限会社チョコレートショップ、東邦レオ株式会社、トヨタ自動車九州株式会社、ニチモウ株式会社、日本航空株式会社 福岡空港支店、日本文教出版株式会社、野村證券株式会社 北九州支店、パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社、株式会社福岡銀行、株式会社マサエイ水産加工、宗像動画製作所、吉本興業株式会社、株式会社読売新聞 西部本社、理想科学工業株式会社

活動開始の経緯

宗像市は北九州市及び福岡市の中間に位置するベッドタウンとして発展してきた。一方、キャリア教育という側面では、子どもたちが多くの職業に触れる機会が都市部ほど恵まれておらず、新型コロナウイルス感染症拡大を契機として、社会環境や産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化が急速に進んだことで、望ましい勤労観・職業観を育むことや、子どもたちが将来に夢や希望を抱くことがより困難になった。このような環境下において、子どもたちのキャリアプランニング能力を醸成するにあたり、様々な社会体験・職業体験が求められる一方、体験機会の創出は学校教育だけでは困難であった。

そのため、教育関係者・企業・団体・市民・行政等が総がかりで、子どもたちの興味・関心を深掘りする学びを提供する取組として、「むなかた子ども大学」を令和3年度から開始した。本事業は、子どもたちが多分野にわたって「本物から学ぶ」「本物を体験する」ことで、学校教育におけるキャリアプランニング能力の向上に向けた取組を補完・強化し、子どもたちが自身の可能性を広げるとともに新たな可能性を発見し、興味・関心を「志」へと変容させることを目指すものである。

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

宗像市では、小中一貫教育により、9年間の「縦のつながり」を図っている。また保護者や地域の方と学校で構成する学園運営協議会を設置し、学校運営に取り組むコミュニティ・スクールにより、地域や家庭との「横の連携」を強化し、双方を一体的に推進してきたことで、社会が急速に変容する中でも、保護者や地域住民とお互いの情報や課題を共有し、これからの時代を生きる子どもたちのために共通の目標・ビジョンを持って、日々の教育活動を進めていく体制を整えている。

また、単なる体験活動の提供ではなく、その仕事の社会的意義や役割、働く人の様々な思いや苦労、楽しさを伝えることで、子どもたちの勤労への意欲や理解度を高め、それぞれが将来の進路を個に応じた選択する能力が育まれるよう、各参画事業者と協議を重ね、講義内容を組み立てている。

さらに、不登校児童生徒に対しても、企業やソーシャルワーカー・不登校児童生徒の保護者と協力のもと、年間を通じて社会的自立につながる様々な学びの場を提供し、誰一人取り残されない学びの保障及び不登校児童生徒が社会とつながるきっかけづくりに向けて取り組んでいる。

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

全国的な人口減少及び少子高齢化の進展に伴い、企業・団体においては担い手不足、大学等の教育機関においては入学者数の減少、宗像市においては人口構造や地域経済構造の偏りが都市経営に影響を及ぼすなど、各方面で持続可能性が低下している。そのような中、「子どもたちが興味・関心を持つ仕事について、本物の体験をとおして様々な切り口から深く学び体験することのできる取組を、市内在住の児童生徒だけが受講できる」仕組みとしたことで、宗像市だけが持つまちの魅力として、市外住民の転入のきっかけづくりに寄与するとともに、企業や団体、教育施設にとっては、その仕事内容や教育内容を深く理解し、それぞれの取組に親和性の高い子どもたちを育てることで将来の担い手確保の一助となるなど、宗像市だけでなく宗像市と連携・協働する企業・団体・教育施設にとっても持続可能性の向上に寄与している。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

従前より協力いただいている事業者による講座だけでなく、地域特性や社会情勢（デジタル化やグローバル化等）の変化に伴い生じた社会的ニーズ、講座受講後に行うアンケートをとおした参加者ニーズを踏まえた講座を毎年新たに展開している。

また令和4年度から、学校教育におけるキャリア教育の一環として、11月に「むなかた子ども大学の日」を設定し、市内小学校・義務教育学校が主体となり、保護者・企業・団体・地域などと連携・協働して子どもたちの興味・関心を深掘りする体験や学習を実施している。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

令和3年度に21講座から始まった「むなかた子ども大学メインキャンパス」は、協力企業・団体・大学が年々増加しており、今年度は34の講座を展開した。

また、「メインキャンパス」に参加できない子どもたちに対してもより多くの学びを提供できるよう、月に1回程度、1つのテーマに絞った「特設講座」を展開し、「本物から学ぶ」「本物を体験する」機会を提供している。「メインキャンパス」は多くの事業者が市内の会場に集まり、様々なコースを展開する一方、「特設講座」では、コースを提供する事業者の施設等を訪問し、より現実に即した設備や環境に触れるような内容の提供を可能としている。

さらに、前述の「むなかた子ども大学の日」において保護者・企業・団体・地域等との協働による、学校教育内でのキャリア教育の機会も生まれ、宗像市で暮らす児童生徒が年間をとおして充実したキャリア教育を受けられるよう取り組んでいる。

加えて今年度は、宗像市が重点施策として推進している「食のまち宗像」の取組の中で、特に拡充を図っている食育事業においては、学校と企業や大学との協働により、地元食材を活用した特産品開発を「むなかた子ども大学」に位置づけた取組として実施することで、子どもたちが食材をとおして宗像の魅力を知り、ふるさとへの愛着と誇りを醸成するとともに、宗像市におけるキャリア教育のさらなる充実に向け取り組んでいる。

学校現場の評価・感想・コメント

（宗像市立河東西小学校 教頭）

「むなかた子ども大学の日」のおかげで、子どもの学びに関心を持ち、参画してくれる保護者や地域の人が増えたと感じる。本校の6年生の授業では、保護者や地域住民に参加してもらい、自身の勤労観・職業観について児童に話してもらう機会を設けている。子どものキャリア教育の充実だけでなく、大人にとっても学ぶ機会になり、地域の子どもの理解が広がった。

「メインキャンパス」や「特設講座」は、提供される体験活動の内容が素晴らしいと感じる。様々な職種の中から、児童生徒は好きなものを選択でき、実際の場所に行ったり、本物を使ったり、そこで働く人の本音を聞いたりして、学校ではできない活動を実現してもらっている。学校教育の補完と充実を図る教育委員会の取組に感謝している。子ども達も、子ども大学のチラシを毎回楽しみにしている。

（宗像市立玄海小学校 主幹教諭）

宗像市一斉で「むなかた子ども大学の日」を設定してあることで、今求められている社会に関われた教育課程の実現やICTを活用した主体的・対話的で深い学びの充実を図るきっかけとなっている。教師がこの取組を通して目指すべき学習の在り方を意識したり、地域の財を活用した学習を計画したりすることで、子供が社会の中の本物と関わりながら情報活用能力や考えを表現する力を育成することに繋がっていると実感している。

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

（国立大学法人 福岡教育大学 松久教授）

弊学は『子ども大学』を立ち上げるにあたり、ワークショップに不慣れな企業等を支援することで、各企業の講座作りへの不安感の払拭と会場全体の企画・装飾の充実を目指した。2年間の連携で事業担当者が同様のスキルを習得し、3年目以降は宗像市の担当者が独自の企画支援や装飾展示で本事業を盛り上げており、こういった宗像市職員の努力が参加企業数や児童生徒数の拡大につながっていると感じる。現在は参加大学の一つとして美術や教育に関する講座を担当しているが、参加した子どもたちや保護者の評価も高く、社会的に有意義な活動といえる。

（アビスパ福岡株式会社 吉浦様）

宗像市とアビスパ福岡は2021年12月15日にフレンドリータウン協定を締結させていただいた。宗像市が推進する「スポーツで笑顔・元気溢れるまちづくり」とアビスパ福岡の基本理念である「地域に根ざしたスポーツクラブ及び地域に生活する人々とともにスポーツを通じて子どもたちに夢と感動を、地域に誇りと活力を与える」という目的を達成するために、むなかた子ども大学の初年度から参加させていただいている。

むなかた子ども大学では「サッカー選手コース」として講座を開いているが、「サッカーを全力で楽しむ！」「一生サッカー好きになる」ということをプロサッカー選手になったときに忘れないようにするために、ボールを使った様々な楽しい競技を行っている。

むなかた子ども大学に参加したことをきっかけに、アビスパ福岡のホームゲームの試合を初めて観戦に来ていただいた方もいらっしゃるので、大変嬉しく思う。

（シフトプラス株式会社 山本様）

立ち上げ当初から3年間連続で講師を行っている。

義務教育とは違い、「好きなことを学ぶ」「社会と触れ合う」大学のような講義をカジュアルに『楽しく』実施されていると感じる。産官学、そして子どもたち。楽しくチャレンジをし続けることで、さまざまな未来へのきっかけが生まれる場所になる取組と言っても過言ではない。

個人的には、この取組を通じて、大人をびっくりさせるような子どもたちに出会いたい。

（福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校高等課程 松野様）

令和5年度より参加させていただき、我々としても大変貴重な機会を頂いている。社会に築かれている様々な職業がある中で、子供たちから見える職業は恐らくごく一部であるように思う。そんな中、「本物から学ぶ」「本物を体験する」という、正に夢を実現させたかのような取組は、純粋で元気旺盛な子供だからこそ得られる大きな刺激で満ちていると感じている。社会における視野だけでなく、将来を担う子供たちにとって人生を広げている機会にもなっている。

（九州朝日放送株式会社 諫山様）

弊社ではアナウンサー体験コースを提供したが、目を輝かせる子ども達の表情が印象的で、正直ここまでやれるものかと驚かされた。メインキャンパスでは弊社だけでなく、複数の事業者が講座を提供している中、その1つ1つで子ども達は初めての体験をして、普段の学校生活とは違う刺激を受けたと思う。逆に、弊社を始め、参加した事業者もまた、子ども達から刺激を受けた。こうした「場」を提供してくれる取組は、事業者としても、直接、仕事や業界の魅力を子ども達に伝えられる数少ない機会だと思う。将来、この講座を受けた子ども達の中から、九州朝日放送のアナウンサーが誕生する日が来ることを楽しみにしている。

（株式会社 JAL スカイ九州 豊田様）

地域をあげて子どもたちのキャリアプランニング能力を醸成できるこの取組みに共感し、開催当初より4年連続で参加している。

子どもたちが自ら選んだ興味・関心のあるコースに参加することで受け身ではなく「なぜ？どうして？」と、主体的に学ぶ姿勢につながっている。

飛行機の飛び仕組みについて、実験を通して学んだり、実物大の航空コンテナの中を見たりなど、普段は経験できない「本物から学ぶ」機会を提供することができて大変嬉しく思う。また、空港では飛行機を飛ばすために、グランドスタッフ・グランドハンドリング・航空整備士・航空貨物などさまざまなスタッフが働いていることを紹介することで、子どもたちの興味・関心を広げ、将来の選択肢を増やすきっかけになることを期待している。

あわせて、講師経験を通して弊社社員の人材育成にも繋がっており、このような機会をいただけることに感謝している。

今後も参加を通して宗像市の人材育成の一助になれば幸いである。

